

地域に貢献し、地域に愛される高校づくり

事業の内容・趣旨等

佐原高校では地域の貢献、連携活動として、「佐原まちづくりプロジェクト（SMP）」に参加しています。地域の皆さんと協力して、夏には本校の文化部の活動を見ていただくために、新しくできた上川岸小公園で発表会を行いました。また、地域の方々の協力の下「梶子棒で鍋敷きづくり」を行い、合わせて台風等の被害の義援金募金を実施しました。

夏 文化部ライブ 佐原高校文化部の発表

高校生の文化的な活動を日頃、見る機会が少ないという事で、佐原町並み交流会の方々と協力して、「夏 文化部ライブ」を8月17日（土）に上川岸小公園にて行いました。演劇部、郷土芸能部、吹奏楽部の発表とカルタ大会を行いました。



梶子棒（てこぼう）で鍋敷きづくり&義援金募金活動

佐原の大祭の時、山車のかじ取りの役目をする梶子棒（てこぼう）、使わなくなった梶子棒を使い、鍋敷きづくりを10月22日（火）に行いました。今回の台風被害のための義援金募金活動を行い、義援金を香取市役所に届けました。



令和元年度魅力ある県立学校づくり大賞

「夏 文化部ライブ 佐原高校文化部の発表」(千葉県立佐原高等学校)

1 目的

佐原まちづくりプロジェクト(SMP)発足当時の目的の1つであった「高校生の居場所づくり」というイベントを行うため、当時のリーダーが郷土芸能部の部長も務めており、私たちの高校の文化部のことをもっと知ってほしいという目的で行った。

2 成果

新しくできた上川岸小公園の関係者や利用者に、佐原高校のことを知っていただく機会となった。

3 準備段階の工夫

高校内の人が出演するイベントだったため、当時のリーダーや先生の人脈を頼りにすることで、時間の無い中でも参加団体を探すことができた。

4 実施段階の工夫

事前に場所の確認をしておき、誘導をしやすくしたり、各団体の交代のときに十分な時間を取ったりして、余裕のあるスケジュールを組んだ。

5 広報活動と成果

今回、一部メンバーによるポスター作りを行った。クオリティーが高いとの声も多かったため、今後も目につくポスターを制作し、少しでも活動を知っていただけるようにしたい。

6 取組への反響

上川岸小公園に立ち寄る地元の方や関係者の方などに、佐原高校の文化部について知っていただくきっかけとなった。しかし、当日は観光客の方が少なく、その場での呼び込みができなかったため、来場者に少し偏りが生じていた。

7 今後の発展

今後、他校の参加が増えれば、同じように「〇〇高校編」を行う事ができる。また他の学校や地域の方々との交流を生むきっかけや他の活動につながる機会となるかもしれない。

令和元年度魅力ある県立学校づくり大賞

「梘子棒（てこぼう）で鍋敷きづくり&義援金募金活動」（県立佐原高等学校）

1 目的

佐原らしさを感じる祭りの山車の引き回しと同じ日に行う事で、普段見るだけだった山車の一部を持ち帰って思い出してもらおうのが目的です。

2 成果

予定人数の100人に達することができた。事前の案内が時間の余裕が取れず、当日も悪天候で、来場者数が心配であったが、幅広い世代の方に来ていただくことができた。

3 準備段階の工夫

ひたすら削る、荷物を動かすなど人手が必要な部分も多かったが、夏ライブの時よりも人が集まる日に準備することで解決できた。準備物については、先輩や地元の方にかなり助けていただいた。

4 実施段階の工夫

入口近くの看板などは袋をかぶせて雨対策するなど当日の状況に合わせて準備物の変更をした。

来場者が時刻による増減が激しかったので、交代で近くの通りまで出て宣伝を行った。

5 広報活動と成果

今回もポスター（チラシ）作りを行った。前回と違うメンバーで作成したため直す部分が多く、印刷が期限ギリギリになってしまった。チラシがあると案内や説明がしやすかった。また、直前になったが、近隣のお店にチラシを置いていただくこともできた。

6 取組への反響

特に地元の方の反応が良かった印象を受けた。観光に訪れている方については天皇即位の礼の日の山車の引き回しについては事前の告知が少なかったため、反応がよくわからない点があった。

11月7日付けの千葉日報朝刊に香取市へ義援金を届けたことが写真入りで報道された。

7 今後の発展

最近、佐原ならではのイベントが少なくなった気がする。今回の反響から佐原の方が佐原に愛着があることに改めて気づくことができた。地域の方々や町との関連が更に感じられる企画をしていきたい。